



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第24号
令和3年 10月11日

ゲストティーチャーの活用 ～その道のプロフェッショナルからの学び～



本校では、子供たちの学習意欲を喚起するために多方面からゲストティーチャーをお呼びしています。ゲストティーチャーをお呼びする最大のメリットは、教員にはない専門的知識・技能が学習でき、キャリア教育にもつながることです。

【3年生 社会科 昔の暮らし】

本校に掲示されている航空写真を見ると昭和24年(1949)高津川沿い一帯は、水田や沼地だったことが伺えます。本校が開校した昭和47年(1972)には、水田

は全て埋め立てられ、造成地になっています。(裏面参照)

八千代市は、昭和29年(1954)大和田町と睦村が合併し、八千代町となり、昭和42年(1967)に八千代市となりました。時代の移り変わりとともに市の様子だけでなく、私たちの暮らしも大きく変化してきました。

3年生の社会科では、古くから伝わる暮らしに関わる道具や、それらの使われ方、その道具を使っていた頃の暮らしの様子を調べたり、体験したりする活動を通して、過去の生活における人々の知恵や工夫に気付いたり、地域の人々の生活の変化や人々の願いを考えたりする学習をします。

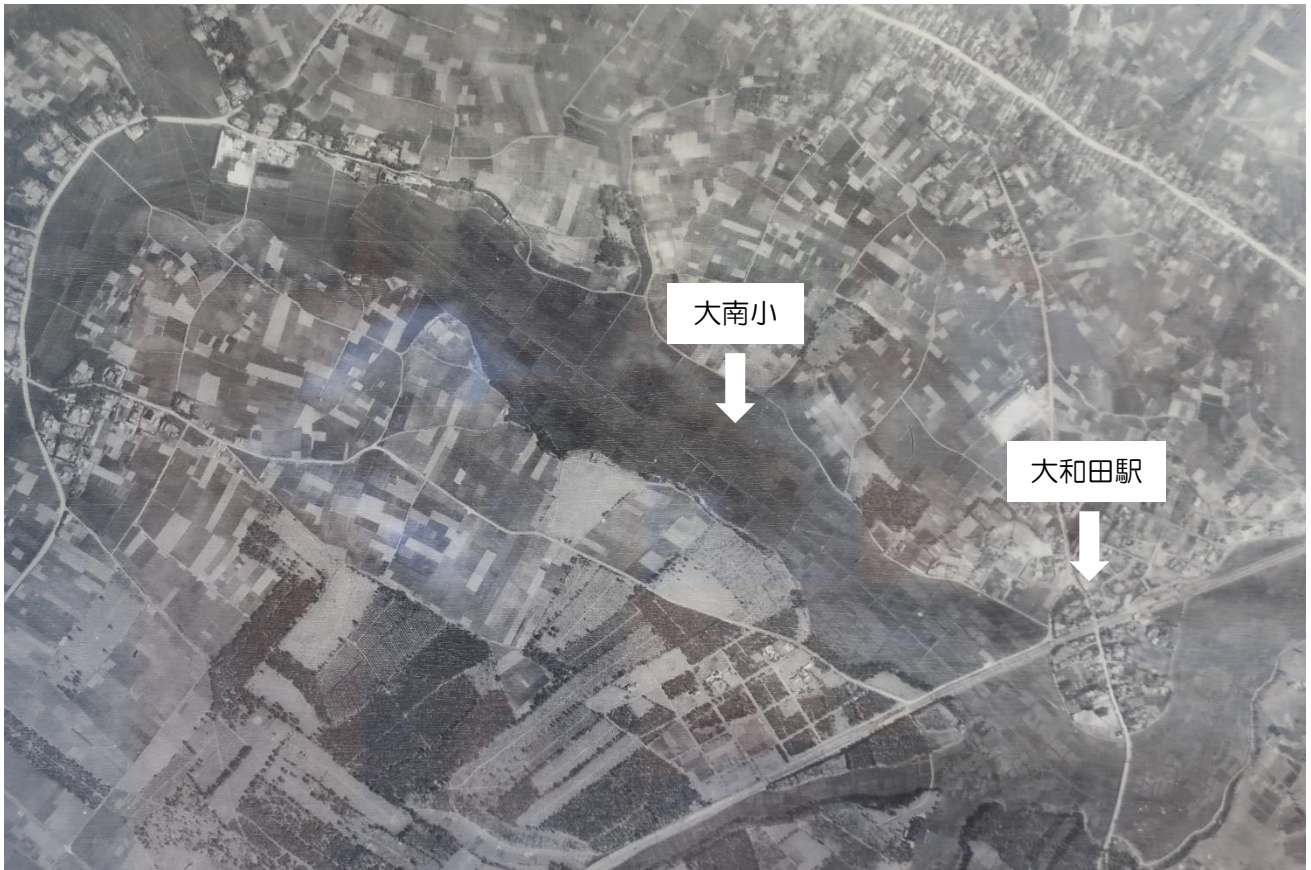
今回ゲストティーチャーとしてお呼びしたのは八千代市郷土博物館職員の押元様です。押元様からは、昔のお母さんたちの苦勞についてお話をいただきました。朝早く起き、薪を使って火を起し、かまどでご飯を炊いていたこと、洗濯は、たらいの中で洗濯板を使って手洗いをしていたこと、お風呂は、井戸から手押しポンプで水をくみ上げ、手桶で何杯も運ばなければならなかったことなど、体験を交えながら教えていただきました。現代でも家事は大変な仕事の一つですが、昔は、もっと大変だったことに気が付きました。

その他にも、手でチャンネルを回す白黒テレビや豆炭を使うあんか、火のし(炭火を入れて使うアイロン)、ダイヤルを回す黒電話など興味津々と触っていました。特に、手回しの蓄音機から流れるレコードの音に、子供たちは興味をもったようでした。

次回は、七輪を使って火を起し、あぶり出しの体験を行う予定です。次はどんなワクワクが待っているか楽しみです。



昭和 24 年(1949)の航空写真



昭和 47 年(1972)の航空写真

